

◆第4学年 学習指導案◆ 「日本の音楽でつながろう」

教材：『こと独奏による主題と6つの変奏「さくら」から』

『津軽じょんから節』『ていんさぐぬ花』

板橋区立緑小学校

『さくら さくら』

第4学年2組 29名

『「さくら さくら」の音階でせんりつづくり』

1 題材の目標

- (1) 曲想及びその変化と、音色、旋律、音階などの音楽の構造との関わりに気付くとともに、日本の音階の音やフレーズのつなげ方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付き、思いや意図に合った表現をするために必要な、反復などの音楽の仕組みを用いて、旋律をつくる技能を身に付ける。
- (2) 音色、旋律、音階、反復などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたり、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもったりする。
- (3) 箏の音色や日本の特徴的な旋律や音階に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞や音楽づくりの学習活動に取り組み、日本の音楽や楽器への関心を広げる。

2 題材について

(1) 研究主題との関連

① 児童の実態から

第3学年「ちいきにつたわる音楽でつながろう」では、お囃子に使われる楽器の音色に注目しながらお祭りの音楽を鑑賞し、お祭りの雰囲気や演奏のよさを感じ取ることができた。また、音楽づくりの学習では、ラドレの3音で旋律をつくり、一人一人がつくった旋律を友達と聴き合うことで、それぞれの作品のよさを認め合うことができた。第4学年「いろいろなリズムを感じ取ろう」では、反復や変化を使って、ペアで言葉を使ったリズムアンサンブルをつくる学習をした。リズムのつなげ方や重ね方を考え、リズムをつなげることで生まれるまとまりや面白さを感じ取ることができた。また、「ちいきにつたわる音楽に親しもう」と関連付けて総合的な学習の時間に地域の郷土芸能を学んだり、外部講師による箏の演奏を聴いたり体験したりする学習を取り入れ、日本の音楽に親しんできた。

本題材では、これまでの学習内容を踏まえ、旋律楽器として箏を中心に取り上げ、『さくら さくら』の演奏にチャレンジしたり鑑賞したりすることで日本の楽器の音色のよさや雰囲気を感じ取ることができるようになる。また、『さくら さくら』で使われている音階を使って音楽づくりに取り組むことで、日本の音楽のよさや美しさを実感できるようにしたい。

② 題材の意義から

本題材では、鑑賞と音楽づくりの学習を関連させながら、児童が日本の楽器の音色や日本の音階のよさや面白さを味わうことができるようにする。

○「自ら求め」

児童は箏の演奏を体験したり、自分たちが住む地域に伝わる音楽を知ったりすることで、日本の音楽への関心を高めてきた。本題材で、再度箏にふれ、箏の音色や日本の音階のよさを想起することで、日本の音楽への期待感をもち、学習意欲を持続させながら学習に取り組むことができるようにした。また、鑑賞の学習で聴き取ったり感じ取ったりしたことを、箏の演奏や音楽づくりを通して実感することで、児童が課題を自分ごととして捉え、題材を通して日本の音楽に親しもうとする態度を育成できるようにした。

○「共に高まり」

鑑賞、音楽づくりの各領域・分野で、グループで活動する場面や全体で共有したり、共感したりす

る場面を意図的に設定することで、児童が考えや表現を広げ深めることができるようにした。また、地域の箏の演奏家を、年間を通して招聘することで、地域の方々や文化との対話的な活動も充実できるようにした。

○「学びをつなげる」

既習の「さくら さくら」を箏の演奏にチャレンジする教材として活用したり、それから着想を得て音楽をつくったりすることで、児童が学びのつながりを実感しながら日本の楽器の音色のよさや日本の音階が醸し出す雰囲気やよさを味わうことができるようにした。また、日本の音楽を鑑賞し、箏の演奏に取り組んだ後に音楽づくりをすることで、児童が題材を通して学んだ日本の音階のよさや、日本の楽器の音色、旋律の特徴等を生かして旋律をつくることができるようにした。本題材を通して、日本の伝統的な音楽に対する愛着を深め、地域に伝わる音楽や、日本や諸外国の様々な音楽に積極的に関わっていきこうとする態度を育てていく。

(2) 学習指導要領との関連

【A表現】(3) 音楽づくり ア(イ)、イ(イ)、ウ(イ)

【B鑑賞】ア、イ

本題材において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

ア 音色、旋律、音階 イ 反復、変化

3 教材について

○は参考曲として扱い、学習評価の対象とはしない。

●『こと独奏による主題と6つの変奏「さくら」から』 藤井凡大 作曲

出典 小学生の音楽4 教育芸術社

合せ爪や押し手、割り爪、後押しなどといった古典的な奏法のほか、ピチカート、グリッサンドなどの現代奏法も用いている。使用されている音階や、旋律の音色の変化を感じ取ることができるようにしたい。ここでは、主題、第一変奏、第四変奏、第五変奏、第六変奏、後奏を抜粋して鑑賞する。

○『津軽じょんから節』 出典 小学生の音楽4 教育芸術社

三味線は、演奏する音楽によって棹の太さや撥の形や音色などが異なる。ここで鑑賞する津軽三味線は、青森県津軽地方に伝わる民謡の伴奏楽器として生まれた三味線で、現在では三味線のみで演奏することも多い。撥を叩きつけるような奏法に特徴がある。箏や三線と比較することで、その音色のよさや面白さに気付くことができるようにする。

○『ていんさぐぬ花』 出典 小学生の音楽4 教育芸術社

三線は、沖縄県及び鹿児島県奄美地方に伝わる音楽で演奏される楽器である。チーガ(胴)にはニシキヘビの皮が張られており、右手の人さし指にはめたチミ(爪)でチル(弦)を弾く。箏や三味線と比較することで、その音色のよさや面白さに気付くことができるようにする。

○『さくら さくら』 出典 小学生の音楽4 教育芸術社

鑑賞の学習の前に、既習曲の『さくら さくら』を歌ったり、箏で演奏したりすることを通して、都節音階が醸し出す雰囲気を感じ取ることができるようにする。箏の楽譜から、旋律の反復に気付き、音楽づくりの学習につなげるようにする。

●音楽づくり「さくら さくら」の音階でせんりつづくり

出典 小学生の音楽4 教育芸術社

2小節分のリズムと、都節音階のミ、ファ、ラ、シ、ドの5つの音を使い、教科書のデジタル教材を用いて自分の旋律をつくる。

旋律例



次に、3人のグループで、つくった旋律をつなげて音楽をつくる。ここでは、旋律の上行、下行といった音の動き方の特徴や、続く感じ、終わる感じを基に、旋律のつなげ方を工夫するようにする。また、反復を用いて旋律をつくるように条件を設定する。グループで、どの旋律をどの位置で反復するか試行錯誤し、まとまりを意識した音楽をつくることができるようにする。

4 研究主題に迫るための手立て

視点1 課題意識をもち、解決に向かっていく主体的な学びの実現

①指導の個別化、学習の個性化

- ・『さくら さくら』の音階でせんりつづくり」の学習では、自分の旋律をつくる際に、児童が必要に応じてデジタル教材を使用できるようにする。つくった旋律を自動演奏機能で確認しながら試行錯誤し、どの児童も無理なく自分の旋律をつくることができるようにする。
- ・使用する楽器として、ミニキーボード（音階シート）、音板が外せる鉄琴、木琴、箏（使用する音のみ柱を立てる）を用意し、取り組みやすい楽器を選んで音楽をつくることができるようにする。
- ・鑑賞で使用する曲の音源と動画を一人一台端末に配布し、児童が聴きたい部分を選んで聴くことができるようにする。

②ねらいと振り返りの連動による学びの探求

- ・題材を通して使用するアンケート形式に自己評価や学んだことを書き入れ、自分の学習記録と教師の価値付けを見返すことができるようにする。児童が、学んだことを確かめたり振り返ったりしながら、前に学んだことと本時に学ぶこととを結び付けて学びを調整しながら学習に取り組めるようにする。また、児童の振り返りを教師が意図的に取り上げ、全体で共有し、新たな課題をもてるようにする。

視点2 考えや表現を広げ深めていく対話的な活動の充実

①考えを広げ深める場の設定

- ・題材を通して、個やグループの考えや表現をクラス全体で共有する場を設け、自分やグループが気付かなかった新しい発想や相違点に気づき、共有したり自己の表現を更新したりできるようにする。
- ・音楽づくりの学習では、第4時で、自分や友達の旋律の音の動きの特徴やそこから生まれるよさや面白さをグループで共有することで、一人一人が自分の考えに自信をもってグループ活動に取り組めるようにする。
- ・年間を通して地域の箏の演奏家を招聘することで、児童が箏や日本の音楽を身近に感じられるようにする。また、演奏家との音や言葉での対話を通して日本の音楽の奥深さや価値に気づき、日本の音楽への関心を高められるようにする。

②協働する意味や目的の共有化

- ・音楽づくりの学習では、つくった旋律をグループでつなげることで、旋律の音の動きや反復の面白さを生かしながら、どの旋律を反復するのか、どの順番で旋律をつなげるのかを、ともに音を出しながら試行錯誤できるようにする。
- ・2小節ずつの旋律をグループでつなげることで、無理なくまとまりを意識した音楽づくりに取り組める。また、一人では感じられない、つなげたときのフレーズ感や反復のよさを感じ取ることができるようにする。

視点3 学びを自覚し、積み重ねつなげていく題材構成の工夫

①身に付ける内容の焦点化と明確化

- ・本題材では、はじめに鑑賞の学習を通して日本の楽器の音色や演奏の仕方の特徴やよさに気付くとともに、旋律の反復や変化、また、日本の音階を用いてつくられた音楽のよさや面白さ、日本の音階が醸し出す雰囲気味わうようにする。
- ・音楽づくりでは、鑑賞の学習を生かすとともに、前題材までに学習したことを想起させることで、日本の音楽のよさに着目し、楽器の音色や旋律の音の動き、反復を試行錯誤しながら、まとまりを意識した音楽をつくる力を身に付けられる学習内容となるように題材構成を行った。
- ・各領域・分野で身に付ける内容を明確にし、学びの連続性をもたせた題材構成を行うことで、児童が日本の楽器の音色や、日本の音階のよさに気づき、日本の伝統的な音楽に対する愛着心を育むようにする。本題材で学んだことを、第5学年「日本の音楽に親しもう」、第6学年「日本や世界の音楽に親しもう」につなげ、日本や諸外国の様々な音楽に積極的に関わっていかうとする態度を育てていく。
- ・常時的な活動として、教師の模倣をしたり、即興的に演奏したりする活動を十分に行うことで、旋律の音の動きの特徴や反復が生み出すフレーズのよさや面白さを実感できるようにする。活動を積み重ね、学習に必要な技能や知識を身に付け、児童が音楽づくりへの見通しをもって自

分の旋律をつくったり、つなげたりできるようにする。

②音楽的な見方・考え方の働かせ方や深化・更新

- ・日本の音楽が醸し出す雰囲気には、日本の楽器の音色、音階や旋律の音の動きが関係していることに気付くように促していく。
- ・題材のまとめとして、これまでの学びの過程が分かる振り返りカードを活用し、教師と学んだことを振り返りながら、児童が自己の変容や成長を自覚するとともに、学んできたことを確かめ、実感できるようにする。また、5年生の日本の音楽の学習につながることや、身近な郷土芸能とも関わらせながら、生活や社会の中の音や音楽とつながることについて伝え合うようにする。



5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①知 曲想及びその変化と、音色や旋律などの音楽の構造との関わりについて気付いている。(鑑)</p> <p>②知 日本の音階の音やフレーズのつなげ方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付いている。(づ)</p> <p>③技 思いや意図に合った表現をするために必要な、反復などの音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付けて旋律をつくっている。(づ)</p>	<p>思①箏の音色、旋律や変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。(鑑)</p> <p>思②旋律、音階やフレーズ、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。(づ)</p>	<p>態①日本の音楽やそれを特徴付けている音色や音階、反復などに興味・関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞、音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。</p>

時	○ 学習内容 ・ 学習活動	◇ 教師の働きかけ T「教師の発問や価値付け」	知 技	思	態
<第一次のねらい>日本の楽器の音色や旋律の変化のよさや面白さを感じ取って聴く。					
1	<p>○曲想及びその変化と音色や旋律などの音楽の構造との関わりについて気付いて聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『さくら さくら』を歌う。 ・教科書を見て、曲名や箏で演奏されていることを知る。 ・『こと独奏による主題と6つの変奏「さくら」から』の6つのうち4つの変奏を聴くことを知り、全曲を通して聴く。 ・主題と第一変奏を聴き比べ、違いについて話し合う。 ・残りの第四、五、六変奏の中から選び聴き深めることを知り、もう一度全曲を聴く。 ・聴きたい変奏を選び、同じ変奏を選んだ人同士でグループをつくりか、旋律の特徴や曲想がどう変わっているかワークシートにまとめる。 ・グループで話し合ったことを学級全体で共有する。 ・全曲を通して聴き、学習の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇既習曲を歌い、本時の学習につなげることができるようにする。 ◇様々な演奏方法を想起できるよう、専門家との交流を振り返る。 ◇主題と変奏について説明する。 ◇新しい変奏になったら手を挙げるよう伝え、変奏ごとの区切りを確認する。 ◇『さくら さくら』の拡大楽譜の音を指示棒で追い、旋律がどう変わったか気付けるようにする。 T「ほかの変奏も聴いてみましょう。『さくら さくら』の旋律がどのように変化しているでしょうか。全体を聴いた後、一つ選んでグループで聴き深めてみましょう」 ◇音色、旋律などの違いに気を付けながら聴くように伝える。 ◇聴きたい部分を選んで聴けるように、一人一台端末で音源を配布しておく。 (視点1-①) ◇変奏の順番で発表させ、曲想の移り変わりを意識できるようにする。 ◇自分の考えと比べながら友達の考えを聴くよう伝える。 (視点2-①) ◇『さくら さくら』の曲想の移り変わりを考えながら聴くように伝え、観点に沿って振り返りが書けた児童を選んで発表するよう促す。 			
2	<ul style="list-style-type: none"> ○『こと独奏による主題と6つの変奏「さくら」から』のよさを見いだしながら曲全体を味わって聴く。 ・曲全体を聴き、変奏ごとの違いを想起する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇前時のグループ発表をまとめたものを提示し、旋律の変化や演奏の仕方による音色の変化を感じ取り 			

	<ul style="list-style-type: none"> ・曲全体を通して聴き、この曲のよさについてワークシートに記入し、友達と伝え合う。 ・箏の演奏の仕方に注目して、DVDを視聴する。 ・『津軽じょんから節』と『ていん さぐぬ花』を視聴し、箏の音色と三味線、三線との違いについて感じたことをグループで伝え合う。 ・3つの曲の雰囲気の違いを全体で伝え合う。 	<p>ながら聴くよう伝える。</p> <p>T「箏の音色や旋律が変わっていきと、曲の感じはどう変わっていきますか」</p> <p>◇自分の考えを書くことが難しい児童には、前時の友達の考えを参考にして書くよう伝える。</p> <p>◇前時で出てきた音色についての児童の発言と結び付けながら、合わせ爪や押し手などを確認する。</p> <p>◇箏以外にも日本に古くから伝わる楽器があることを伝える。</p> <p>◇3つの楽器の音色や演奏の仕方を比較して、箏の特徴に気付けるようにする。また、曲想の違いから使われている音階によって曲想の違いが生み出されていることを伝え、日本の音楽への興味を広げることができるようにする。</p> <p>(視点3-②)</p>		① 発言・記述	
3	<ul style="list-style-type: none"> ○箏の音色や響きと演奏の仕方との関わりについて、学んだことを振り返りながら演奏する。 ・『さくら さくら』を歌ったり、箏で演奏したりする。 ・演奏の仕方を思い出しながら、箏の音色に気を付けて『さくら さくら』を箏で演奏する。 	<p>◇音楽学習発表会で演奏した『さくら さくら』を想起し、音階について確認する。</p> <p>◇鑑賞の学習で視聴した押し手やピチカート、スクイ爪などを取り入れ、箏の音色と演奏の仕方との関わりを、体験を通して気付くようにする。</p>			
<第二次のねらい> 5つの音で旋律をつくり、グループでまとまりを意識した音楽をつくる。					
4	<ul style="list-style-type: none"> ○旋律のつくり方を知り、音の動きを工夫して自分の旋律をつくる。 ・常時的な活動（本時で扱うリズムを使った旋律模倣、即興的な旋律づくり）に取り組む。 ・旋律づくりのルールを知る。 <div data-bbox="236 1765 694 1921" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ☆ミファラドでつくる。 ☆日本の音階らしさが感じられるようにつくる。 ☆音の上がり下がりを考えてつくる。 </div>	<p>◇教師の演奏を模倣したり、即興的に演奏したりして、音階やリズムに慣れるようにする。</p> <p>(視点3-①)</p> <p>◇この学習では、一人一人がつくった旋律をつなげてまとまりのある旋律をつくることを伝え、学習の見通しをもってつくることができるようにする。</p> <p>◇日本の音階らしさを感じ取れるような和声的な旋律（ファラドのみでつくられた旋律など）と比較する。</p>			

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4分の4拍子、2小節の旋律をつくる。 ・ 3人グループで同じ楽器を選び、自分がつくった旋律を演奏して試す。 ・ 自分がつくった旋律をグループで紹介し合う。 ・ 学習を振り返り、一人一台端末に入力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇旋律の音の動きとそのよさや面白さを確認する。 T「音の上がり下がりによって、どのような感じがするか、考えながら旋律をつくりましょう」 ◇デジタル教材で、つくった旋律を自動演奏で確かめたり、実際に演奏したりしながらつくるよう助言する。(視点1-①) ◇つくった旋律をいろいろな楽器で演奏して試せるように、ミニキーボード、鉄琴、木琴、箏を用意しておく。 ◇旋律の特徴や演奏の技能に応じて、旋律や楽器を変えてもよいことを伝える。(視点1-①) ◇つくった旋律をグループで聴き合い、旋律の音の動きや曲の感じについて伝え合うよう助言する。 ◇つくった旋律を付箋に記録する。 ◇音の動きについて考えたことを記入するよう伝える。(視点1-②) ◇授業後、児童がつくった旋律の音の動きの特徴を把握し、児童の振り返りに価値付けを記入しておく。 	<p style="text-align: center;">②知演奏聴取・行動観察</p>
<p>〈 Aと判断される児童の状況 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 旋律の音の動きによって感じが変わる面白さや日本の音楽らしい旋律の音の動きに気づき、いろいろな音の動きを試しながら旋律をつくっている。 <p>〈 Cと判断されそうな状況への手立て 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どのような旋律をつくるかについて考えが浮かばない児童には、旋律の動きカードを示しその特徴を伝え、旋律の動きを決めることができるように支援する。その動きを選んだ理由について自分の考えを言葉にすることが難しい場合は、他題材で学習した旋律の音の動きと曲想との掲示を示し、自分の考えを伝えられるよう支援する。また、教科書のリズムで演奏することが難しい場合には、比較的容易なリズムを提案し、演奏の技能に応じて選べるようにする。 			
<p>5 本 時</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○音の上がり下がりや反復を生かして、旋律のつなげ方を考え、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。 ・ 常時的な活動（即興的に旋律をつなげていく音楽づくり）に取り組む。 ・ 旋律のつなげ方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇つくった旋律をいろいろな順番でつなげ、繰り返しの場所が変わると旋律のまとまる感じが変わることに気付くことができるようにする。(視点3-①) ◇「続く感じ」「終わる感じ」や反復について確認し、どのように旋律をつなげると、まとまりを意識した音楽となるか例を示す。(視点2-②) 	

	<ul style="list-style-type: none"> グループでつくった旋律をつなげる。 近くのグループ同士で聴き合う。 旋律の音の動きや反復の位置を考えて、グループの音楽をまとめる。 いくつかのグループの発表を聴く。 学習を振り返り、一人一台端末に入力する。 	<p>T「どのような順番でつなぐと音楽にまとまりが感じられますか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇付箋のワークシートを使い、旋律をつなげる順番や旋律の音の動きが視覚的に分かるようにする。 ◇旋律の音の動きや反復の位置について交流し、ヒントを得たり、グループの考えを確かなものにしたることができるようにする。 ◇まとまりを意識してつくった旋律をつくり変えたり、「終わる感じ」や「続く感じ」が出るよう考えてつなげたりしているグループを抽出し、工夫例を学級全体で共有する。 (視点2-①) ◇つなげている途中のグループも取り上げ、悩んでいる点を全体に伝え、友達からアドバイスをもらい、次時の学習に生かせるようにする。 ◇旋律をつなげるときに考えたことや、つくる過程で変わったことなどを伝えてから発表するよう伝える。 ◇旋律の音の動きを生かして旋律のつなげ方を考えたり、反復の位置を考えたりすることができたかについて振り返るよう伝える。 (視点1-②) <p>★〈Aと判断される児童の状況〉〈Cと判断されそうな状況への手立て〉は本時案参照。</p>	<p>② 演奏聴取・発言内容・記述</p>	
<p>6</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○反復を用いて、まとまりを意識した音楽をつくって発表し合う。 ・前時につくった音楽を確認する。 ・つくった音楽をグループごとに発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇つなげた旋律がまとまりを意識した音楽に聞こえるように演奏するよう伝える。 ◇自分たちがつくった音楽の、旋律の音の動きやつなげ方、反復の位置についてグループで確認し、発表するときに伝えられるよう助言する。 <p>T「音の動きや反復の位置について自分たちがつくった旋律と比べながら聴きましょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇発表した後に、どのように旋律をつなげたか紹介し、聴く側が旋律を視覚的に確認しながら、再度聴くことができるようにする。 ◇他のグループの音楽を聴くことで、いろいろな表現のよさに気付くようにする。(視点2-①) 	<p>③ 技演奏聴取</p>	 <p>① 行動観察</p>

<p>・学習を振り返り、一人一台端末に入力する。</p>	<p>◇発表の様子を録画し、自分たちの演奏を客観的に振り返ることができるようにする。 ◇題材全体を振り返り、日本の楽器の音色や音階のよさについて考えられるようにする。 (視点3-②)</p>	<p>演奏聴取・記述</p>
<p>〈 Aと判断される児童の状況 〉 【技】・友達の旋律と自分の旋律との相違点などを十分に理解しながら、反復を効果的に使い、フレーズの特徴を生かして旋律をつなげ、思いや意図に合った音楽をつくっている。 【態】・自分のつくった旋律と友達の旋律とを比べながら、どのように旋律をつなげるかについて積極的に発言したり、よりまとまりを感じられる旋律をつくるために、自分の旋律や友達の旋律の特徴を伝え合ったりして、より納得のいく旋律づくりについて最後まで取り組んだことを詳細に記述している。</p> <p>〈 Cと判断されそうな状況への手立て 〉 【技】・つくった旋律のよさを教師と一緒に見付けたり、演奏が難しい場合には同じ音や近くの音に変えることを提案したりする。 【態】・自分の考えを書くことが難しい児童には、板書やこれまでの学習を一緒に振り返りながら書くようにする。</p>		

7 本時の展開

5 時間目

(1) 本時のねらい

旋律の上がり下がりや旋律のつなげ方、反復の位置を工夫して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。

(2) 本時の展開

○ 学習内容 ・ 学習活動	◇ 教師の働きかけ ◆ 評価規準 〈評価方法〉
<p>○音の上がり下がりや反復を生かして、旋律のつなげ方を考え、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。 ・常時的な活動（即興的に旋律をつなげていく音楽づくり）に取り組む。</p>	<p>◇提示した旋律をいろいろな順番でつなげ、繰り返しの場所が変わると旋律のまとまる感じが変わること気付くことができるようにする。(視点3-①)</p>
<p>日本の音階のとくちょうを生かして、 まとまりを感じられるせんりつをつくろう</p>	
<p>・旋律のつなげ方を知る。 ・グループでつくった旋律をつなげる。 ・近くのグループ同士で聴き合い、意見交換をする。</p>	<p>◇「続く感じ」「終わる感じ」や反復について確認し、どのように旋律をつなげると、まとまりを意識した音楽となるか例を示す。(AABC、ABACなど) (視点2-②) T「どのような順番でつなぐと音楽にまとまりが感じられますか」 ◇つくった旋律の動きを記した一人一人の付箋をグループのワークシート上で操作し、旋律をつなげる順番や旋律の音の動きが視覚的に分かるようにする。 ◇旋律の音の動きや反復の位置について交流し、ヒントを得たり、グループの考えを確か</p>

【予想される児童の発言】

- AさんとBさんのせんりつのどちらを先にしたほうが音の動きがなめらかになるかな。
- 終わる感じにしたいから、下がっていくせんりつをさいごにしてみようかな。
- 前半は音の高さがあまり変わらないせんりつを2回くり返したよ。終わり方をどうしたらいいかな。
- 低いミの音にしたら終わる感じになるかな。

- 旋律の音の動きや反復の位置を考えて、グループの音楽をまとめる。
- いくつかのグループの発表を聴く。

- 学習を振り返り、一人一台端末に入力する。

なものにしたりできるようにする。

◇まとまりを意識してつくった旋律をつくり変えたり、「終わる感じ」や「続く感じ」が出るよう考えてつなげたりしているグループを抽出し、ワークシートを電子黒板上に映し、工夫例を学級全体で共有する。

(視点2-①)

◇つなげている途中のグループも取り上げ、悩んでいる点を全体に伝え、友達からアドバイスをもらい、次時の学習に生かせるようにする。

◇旋律をつなげるときに考えたことや、つくる過程で変わったことなどを伝えてから発表するよう伝える。

◇旋律の音の動きを生かして旋律のつなげ方を考えたり、反復の位置を考えたりすることができたかについて振り返るよう伝える。

(視点1-②)

◆旋律、音階やフレーズ、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。

(つ) 思・判・表②

〈Aと判断される児童の状況〉

- 表したい感じが出るように、旋律の動きやつなげ方、反復や変化を試行錯誤しながらフレーズの特徴をつかみ、まとまりを意識した音楽について、はっきりとした思いや意図をもっている。

〈Cと判断されそうな状況への手立て〉

- つなげ方のパターンを参考にしたり、友達の演奏やつなげ方の理由を聞いて、まねをしたりするなどして、旋律のつなげ方を考えられるようにする。
- 技能的につくった旋律を演奏することが難しい児童に対しては、個別に指導したり、旋律のリズムを変えることを提案したりする。

助言者の言葉

本授業では、第4学年の児童が4月当初に学んだ歌唱共通教材『さくら さくら』で使われている音階をもとに、年間通したゲストティーチャーから学んでいる箏を使ったり、児童が自分で旋律をつくりやすい楽器を選んだりして、学んだことを生かしつつ一人一人に応じた旋律づくりを行う学習を提案しています。児童一人一人によって、選んだ楽器によって、つくられる旋律も響きも違ってくることでしょう。グループでは、それぞれのよさを生かして互いの旋律を聴き合いまとまりを意識しながら一つの旋律にしていきます。そこには、いろいろな課題とぶつかりながらも、これまで身に付けたことを振り返り、知恵を出し合い、音を聴き合い音楽をつくっていく姿が見られます。まさしく、ここに、研究主題「自ら求め、共に高まり、学びをつなげる児童」が育っているのが分かります。